

修了式 校長講話

皆さんおはようございます。校長の高橋です。3学期修了式にあたって、お話をします。

さて、2月の合唱祭、先日の球技大会、それぞれの実行委員の皆さんお疲れさまでした。合唱祭は、昨年度以上に心のこもった素晴らしいハーモニーを聞かせてくれたばかりでなく、聞く皆さんの態度とても立派でした。皆さんの持つ文化的な水準の高さを見せてくれた行事でした。来年度の体育祭、杉高祭も皆さんの生き生きした姿を楽しみにしています。3月2日に第69回卒業式を挙行了しました。2年8組の太田さんの送辞は卒業生に対する敬意と感謝にあふれ、心のこもった優しいものでした。3年3組の浅野さんの答辞は3年間の高校生活に対するわずかな無念さとそれでも充実していた高校生活を振り返る思いのこもったすばらしいものでした。

「コロナでかわいそうな世代だと言われるけれど、到底そうは思わない。また、一言で終わらせないで欲しい。この環境でしか学べない素晴らしい経験と支えがあった。」と家族や先生方への感謝を述べていて、大変心を打たれました。式歌「正解」も難しい曲を全員で心を込めて大きな声で歌っていたのにも感動しました。私の経験の中でも心に残る卒業式でした。

さて、一昨日3月13日に2年生のスピーチコンテストが行われました。13人の代表が素晴らしいスピーチを披露してくれました。1年生のレシテーションコンテストも素晴らしかったです。入賞者の皆さんおめでとうございます。

今年度は、1学期の終業式にタモリさんに関して、『『幸せ』というのは前の上を見るんじゃなくて、後ろの下を見ること。望むものじゃなくて、感じるもの。』という言葉を紹介し、「幸せ」は今ここにはない「理想」の状態を追い求めるのではなく、今ここにある現状に満足して、感謝することで、バカボンのパパの「これでいいのだ」に至ることについて話しました。

先日、NHKのブラタモリの放送がいったん終了してしまったことは私はとても残念に思っています。

2学期の始業式は、桑田佳祐さんの著書から、「違和感と諦めの悪さ」、「仕事を楽しめるように」、「プライドとは」、「傷つけられた言葉も思いやりのある言葉も人は忘れない」ことをお話ししました。

2学期の終業式は、宮崎駿監督の口癖「めんどくさい」から、めんどくさいとってしまった時にどうすればいいのか、私なりのやり方を3つ提案しました。

- ①「めんどくさい」とか「無理」といわない
- ②一気にまとめてやろうとしないようにする
- ③とりあえずやってみる

あなたが「めんどくさいと思っていること」はあなたが大切だと思っていることだということ。それを克服すると、達成感や幸福感、生きがいなどを生むきっかけともなるということを伝えました。卒業生の浅野さんが答辞で「コロナの環境を乗り越えたから身に付けたことや経験できたこと、多くの人への支えに気が付いた」といったことにつながると思います。宮崎監督の「君たちはどう生きるか」がアカデミー賞長編アニメーション賞を受賞したことも、彼が「めんどくさい」と言いながら、そこから逃げずに向き合った結果ではないかと思えます。

私もこの場で、今年度1年で皆さんにお話ししたことを振り返りましたが、是非皆さんもこの1年を振り返り、来年度に生かしてください。

話は変わりますが、自転車通学者の皆さんにお願いがあります。道路交通法では、自転車に乗る際にはヘルメットの着用が努力義務となっています。校則にはなっていませんが、自らの身を守るためにヘルメットを購入し、着用するようにしてください。

最後に、2年生は4月から最終学年となり、体育祭、杉高祭で悔いを残

さないように楽しみ、希望進路の実現に向けて準備を頑張ってください。まだ、志望が決まっていない人はこの春休み中に決めてみてはどうでしょうか。また、1年生の皆さんは春休み期間中、部活動や新入生歓迎にそなえて頑張ってください。18日からNZに海外語学研修に行く30名の生徒の皆さん、気を付けて行ってきてください。せっかく行くのだから積極的にコミュニケーションをとり、様々な体験をして、その成果を新学年で生かして下さい。

これからも、何か困ったことがあったり、悩みがあったったりしたら、一人で抱え込まずに先生や校長に相談して下さい。

4月8日の始業式に全員元気な顔で会えるのを心から願っています。私からの話は以上です。